

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	音 楽（器楽合奏）
発行者	総合的な所見
教 出	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①スモールステップで段階的に技能の習得ができるように掲載している。</p> <p>②ページの最上部に見開き2ページ分の題材名を示している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>③箏の創作では、「荒城の月」の前奏をつくる活動がある。活動①～③の手順を示しており、イラストのキャラクターから、前頁で学習した事項を取り入れ工夫をすることなどのアドバイスをしている。</p> <p>④各楽器のカテゴリーごとに、音楽的な見方・考え方を働かせながら、表現の工夫を考えるワークシートがある。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>⑤鑑賞や歌唱表現活動で取り上げる曲を、リコーダーでの表現活動にも取り組めるよう楽譜を掲載している。</p> <p>⑥学習する楽器とつながりのある世界の民族楽器を紹介し、音楽と文化とのかかわりについて考える発展的学習のページを掲載している。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>⑦和楽器の基本的奏法に関する内容をわかりやすく表し、和楽器を用いた多様なアンサンブル曲を始め、多数の曲を掲載している。</p> <p>⑧管楽器・弦楽器・打楽器・アンサンブルの順に掲載している。（①リコーダー ②篠笛 ③尺八 ④ギター ⑤箏 ⑥三味線 ⑦太鼓 ⑧アンサンブル曲集・Let' s Play!・Let' s Try! ⑨名曲旋律集 ⑩資料）</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>⑨アルトリコーダーのそれぞれの練習曲に、新しく学習する運指を見開きページの左右の端に図で提示している。また、ソプラノリコーダーの運指も記載している。</p>
教 芸	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①聞き馴染みのある曲や親しみのある曲を通して技能の習得ができるように掲載している。</p> <p>②ページの最上部に見開き2ページ分の活動内容を示している。また、教材曲の下に活動文を示している。</p>

## 第2の観点

③箏の創作では、課題や条件にそって旋律をつくる活動がある。課題と条件を示し、Warming-up から①～③の手順と創作の例を示している。また、イラストのキャラクターが既習事項である「いろいろな奏法」を取り入れる工夫をするよう促している。

④「アンサンブルセミナー」とともに「学びのコンパス」のページがあり、表現活動を通して思考力・判断力を育む場面を設定している。また、考えたことを記録するワークシートが二次元コードに組み込まれている。

## 第3の観点

⑤ギターと関連付けて、ポップスのバンドスコアを掲載している。

⑥学習する楽器それぞれについて演奏の様子だけでなく、ジャンルを超えて取り入れられている場面や他の芸能とのかかわりを示す資料を掲載している。

## 第4の観点

⑦和楽器のページにおいては、楽器の奏法に関係することだけでなく、各楽器を用いた鑑賞曲も取り上げている。

⑧使用頻度の高い楽器・和楽器・打楽器・アンサンブルの順に掲載している。(①リコーダー ②ギター ③箏 ④三味線 ⑤太鼓 ⑥篠笛 ⑦尺八 ⑧打楽器 ⑨アンサンブル ⑩楽器で Melody ⑪資料)

## 第5の観点

⑨アルトリコーダーの練習曲の運指を見開き左右どちらかにまとめて図で提示している。